

家庭教育支援協会

会報誌 第5号

家庭教育の未来

和田 公人
八洲学園大学 学長



家庭教育の重要性はあえて言わずとも、国も国民も異論のないところでしょうが、それにも関わらず家庭教育を学ぼうとする人が増えない理由はいくつかあると思います。

1つは、家庭教育が極めて個人的なテーマだということです。それぞれの家庭において家庭教育は深刻な問題だとしても、その家庭で得た知見は、他の家庭に応用しづらいということでしょう。また、自分の家庭の問題が解決すれば、それを他の家庭のために共有するインセンティブがないのかもしれませんが、さらに、他人の家庭の問題に首を突っ込みにくいということも原因でしょう。

しかし、これらは家庭教育に限ったことではなく、人を対象とした場合、共通して直面する問題です。つまり、ある人に効果があった方法が別の人にはまったく効果がないということです。教育だけでなく、医療や企業内でも同様の問題は起きます。医療では、この問題を統計的に妥協することで乗り越えようとしています。全員に効果がなくても、一定の割合で効果があれば、良しとするわけです。そのため、効果的とされる治療法でも治らない人もいれば、副作用でかえって悪くなる人も一定の割合で出てきます。

家庭教育もこのような統計学により説得力を持たせることが必要なのかも知れません。自分がかかえる問題の解決策が複数の中から選択しなければいけない時に、Aの方法は50%の確率で問題が解決しています、Bの方法は70%で成功していますが、10%の割合で悪化しています、と提示された方が意思決定しやすくなります。このようなデータを提示するためには、多くのケースを集める必要があります。家庭の問題を数多く集め分析するという作業は、膨大な労力を必要とします。個人では、このようなことは不可能でしょう。家庭教育を志す人が集まる意味はこのようなところにもあるかも知れません。

家庭教育を学んだ場合と、学ばなかった場合で、5年後、10年後に家庭がどう違ったのかを、数字で提示することで家庭教育がより実践的になり、多くの人々が学ぶようになることを期待いたします。

今年度に行われた活動についてご報告申し上げます。

平成25年度 家庭教育支援協会 上半期活動報告

自 平成 25 年 4 月 1 日
至 平成 25 年 9 月 30 日

年月	日	事業内容	場所
2013 4	20	総会	八洲学園大学
		研修会 テーマ「子どもの心に育つ原風景」 講師 八洲学園大学 渡邊達生教授	八洲学園大学
6	1	家庭教育に関する調査・研究 第3回「親の学び・親育ち支援ネットワーク」例会 二川理事長・木村理事参加	専修大学 神田キャンパス
		同上 和田みゆき副理事長 発表	
7	20	研修会 第3回 家庭教育学の構想研究委員会 二川理事長、木村理事、城条理事、松本理事参加	倫理文化センター (社団法人 倫理研究所)
8	21	講師派遣 講演 二川早苗理事長 「公民館で作る家庭の絆」	相模原市役所職員研修センター
8	24	家庭教育に関する調査・研究 日本家庭教育学会第28回大会 口頭発表 城条洋子 演題 「相談・支援事業から見た家庭教育の重要性」	貞静学園短期大学

★別途、定例理事会、並びに 各委員会会議が、随時行われました。

活動報告 ～家庭教育学の構想研究委員会に参加して～ 7月20日

二川 早苗
家庭教育支援協会 理事長・日本家庭教育学会常任理事

去る7月20日、東京 JR 水道橋駅近くにある倫理文化センターに於いて「第3回家庭教育学構想研究委員会 WG」が開催された。出席者は日本家庭教育学会理事と関係者、家庭教育支援協会からは4名の理事が参加して行われた。およそ2時間超に渡り、家庭教育学構築に向けての問題提起と話し合いがなされた。

はじめに、八洲学園大学の中田雅敏教授から『教育改革のゆくえ—教育改革・教育再生実行会議のゆくえ—』と題して、近年の教育改革の動向について発表があった。特に「いじめ防止及びいじめによる自殺の根絶」の詳細な記述とともに、その遠因について蓮田市の実態から分析し、教育委員会及び行政政策の問題点を浮き彫りにした。おそらくこの問題は一面において日本の抱える構造的な問題に直結しているといえよう。

閉塞した社会で行われるいじめは大人社会の縮図として子どもたちの世界でも行われていることが多く、その根幹にある家庭教育の充実が急がれる。

次に同じく八洲学園大学石井雅之教授による『学会誌の充実と家庭教育学の基礎固めに向けて(若干の私見)』による発表があった。石井氏は第1回家庭教育学構築委員会での望月日本家庭教育学会名誉会長

の提言から①人間論②家族論③家族関係論④子ども論⑤発達課題論⑥人格論⑦教育方法論の「七つの柱」の基礎理論を取り上げ、その重要性を強調した。また日本家庭教育学会足立会長の三つの視点として、①社会学的・社会福祉学的視点②倫理的視点③人間関係学的視点を上げたうえで、まとめとして、「德育」「知育」「体育」「食育」の分野ごとに研究してはどうかと提案があった。これらの提案を受けて、出席者の活発な意見交換が行われた。

活動報告 ～相模原市職員研修会「公民館で作る家庭の絆」～

8月21日

平林 直人

家庭教育支援協会副理事長・日本家庭教育学会常任理事

相模原市教育委員会の主催で、公民館を管理しておられる方々を対象に家庭教育支援協会の二川理事長が講演をされましたので報告いたします。今回の講演は「日本の家庭教育の現状と問題点、公民館でできること」という内容で、当協会の理事が講演のためのデータ収集と資料集めを行いました。

会場は相模原市の職員の研修所で、20名の参加者と関係者、当協会からは平林、城条理事、木村理事が参加しました。

講演では二川理事長からは①平成18年に教育基本法が改正になり第10条に家庭教育が盛り込まれ行政側の体制が整いつつある環境であること②離婚などによる一人親家庭が増えており、一人親の低年齢化が進んでいることや経済的に困難な家庭が増得ていること③家庭の経済的な格差が学歴の差を生んでいること④外国人を親に持つ家庭が増えており、修学や社会保障制度、経済的な問題などの多くの問題を抱えていること⑤児童虐待の問題が深刻になっていること、そしてその一番の加害者が実母であること⑥若年妊娠・出産・育児の問題⑦不登校やひきこもりの問題について説明がありました。

そして、公民館への期待として地域のコミュニティーとしての役割と、虐待などの問題の早期発見と相談窓口になっていただくことをあげました。二川さん自身も子育てに悩んで公民館に相談に行った経験があるそうです。

多くの事例は家庭を持つ準備、社会人になる準備・心構えができていなかったことから起きていると考えられます。公民館は若い人に、あるいは家庭を持った方の良き家庭づくりを地域の中で支える存在になってほしいと感じました。



活動報告 ～日本家庭教育学会第28回大会～

8月24日

8月24日(土)に行われた日本家庭教育学会第28回大会から、元国立市教育長の石井昌浩氏のご講演、並びに、本家庭教育支援協会理事の口頭個人発表についてご報告申し上げます。

講演 石井昌浩氏 「家庭と学校のあり方を問う—いま何が問題なのか」

五十五年前、山形の高校を中退し家出して大学に入るまでの三年間、職業を転々として生き繋いできたが、そのときの経験が今に活かしている。家庭は貧しかったが、両親は慈しみ深く育ててくれた。ところが私は親心のやさしさに気づかず、感謝もせず、逆らってばかりという親不孝を絵に描いたような子どもだった。親の心の深さや有難さを理解できるようになったのは二人の子どもを授かってからだ。親が子どもの人生のルールを敷き過ぎるのはよくないが、大まかなルールは必要だ。子どもは野放図に育ててもよくないし、厳しすぎてもひねくれてしまう。実に子育ては難しい。

子どもを育てるうえで一番大切なことは、「どのように子どもを育てるのか」の前に、「親としての構え」である。親として自分の人生をどう生きるかという人生の哲学が確立できていない親が子どもを導くことはできない。



少年院の教官をしていた兄が「その子たちがどんなに罪を犯しても家庭の受け皿がある子は必ず立ち直る。これは真理だ。」と語っていた。逆に少年院での教育がうまくできたとしても家庭の受け皿がなければ元に戻ってしまう。家庭は苗床である。豊かでなければ立派な苗は育たない。

先般「いじめ防止法」が成立したが、人間集団のあるところにいじめは必ず存在する。問題解決を第三者委員会に委ねたところでうまくいかない。自らが考え答えを出さなければならない。子どもたちには自分に自信をもち勇気をもって生き抜いてゆくずぶとさを持ってほしい。親は全力をあげて子どもの命を守らなければならない。

人間にとって家庭は人生の最初に出会う場所であり、教育にはやさしさと同時に厳しさも欠かせない。次に会うのは学校だ。学校は今や地域の文化センターとしての役割から災害時の避難センターの役割のみになってしまった。家庭、学校、地域の教育力が衰え連繫どころではなくなっているのが実態だ。更に深刻な問題は、家庭で勉強する習慣が失われてしまったことだ。ネット中毒、ネット依存といわれる中高生は全国で約五十二万人といわれている。家庭が今やインターネットに浸食されている状態である。

教育が究極に求めるものは子どもの社会的な自立であるが、家庭だけではできないことが二つある。一つは専門的な教育を施すこと、もう一つは子ども同士の集団における生活指導である。この二つは学校にお願いするしかない。このように子どもにとって家庭と学校はかけがえのない場である。努力すれば必ず幸せが待っている。家庭と学校の形だけの連繫ではなく、現実を見据えた新たなやり方で自信をもって真の連繫を皆で築き上げていこう。(文責 二川早苗)

口頭発表「相談・支援事業から見た家庭教育の重要性」

城条洋子

家庭教育支援協会理事・家庭教育アドバイザー



去る8月24日、貞静学園短期大学において「第28回日本家庭教育学会」が開催され、口頭発表をしました。

17年余り民生委員児童委員として、相談・支援を行ってきました。

その中から見えてきた家庭の在り方、家族と地域のつながりの中で本来あるべき子どもの育つ環境とは何か、子どもに対しての心構えを構築し、家庭教育の必要性を感じました。

近年、家族構造の変革で核家族の増加において家族が孤立しています。また、家庭教育が確立できていない為に発生したネグレクトで、家庭崩壊し、性的虐待で家族分離等々の事例があったことから、家庭教育の重要性を感じています。

親の役割として、家庭教育を確立することが大事であると思います。

親自身は自分が育った環境の中で身に付いたものを、知らず知らずのうちに子どもに伝授していることが多いために連鎖を引き起こすこともあります。そこで、親の役割として次の三つの柱を提示します。

1. 豊かな心を育てる
2. 自立心を育てる
3. 社会で貢献できる人間に育てる

子どもにとって「家庭」は安らぎのある楽しい場所であり、社会へ巣立っていくために大切な場所であるので、家庭の中では、親の笑顔が子どもの笑顔をつくります。

そして、親子が共に学び、育ち合い、「家庭教育」を地域全体で応援し、「やさしい社会」が子どもたちの未来を育んでいける環境を作り上げていく努力をすることが大事だと思います。

今後の活動予定①

家庭教育支援協会 公開講座 2013年10～11月

八洲学園大学 公開講座のサイトをご覧ください。

こちら→ <http://www.yashima.ac.jp/univ/extension/course/>



■講師／青山利江

シリーズテーマ『ジェンダーと子育てと介護』

1996年 エステティシャン(DIPLOMA)取得

2008年 八洲学園大学卒業(社会教育主事(任用))

家庭教育師・家庭教育アドバイザー資格取得

2012年 栃木男女共同参画地域推進員

現在・親学習プログラムのファシリテーターとして地域で指導を行うとともにジェンダーのありかたと子育てや介護の関係の研究を行いながら夫の会社の経理事務を営んでいる。

○11/9(土) 11/16(土) 13:00～14:30

○受講費 1,000円/回

	日程	時間	内容
1	11/9 (土)	13:00 ↓ 14:30	平成6年から平成16年2月の10年間、介護や子育てに追われプラス仕事の日々が続きました。 私は一体何だろう、と思わずにはいられない日々があり、助けてくれた人は子どもでした。このことについてお話しします。
2	11/16 (土)	13:00 ↓ 14:30	ジェンダーを学び始めてからの疑問、子育てと介護との共通点などを交え、子育てと介護の経験から学んだことを含めてお伝えします。



■講師／和田みゆき

シリーズテーマ 『まだ子育てを学んでいないのですか？』

子育ての基本中の基本「信頼関係の構築」と「自己肯定感の育て方」のコツを掴んで、2ランク上の子育てを始めましょう』

家庭倶楽部代表。

学校法人八洲学園理事、学校法人文理開成学園理事、NPO 法人いばしょづくり理事、一般社団法人 KIDS 社交ダンス協会理事、日本家庭教育学会常任理事、家庭

教育支援協会副理事長

自身の子育ての失敗と成功体験を通じて「子育ては、人類最大の事業であり、自身の天職」と感じ家庭教育研究家として、日本家庭教育学会認定の家庭教育アドバイザーとして、子供の生まれ持った能力を最大限に引き出す和田みゆきメソッド『子育て開花プログラム』を開発。

子育て・親育てに関する家庭教育講座・セミナー・講演・執筆活動等に日夜情熱を注ぐ。

U-stream 子育て番組「MamaBATV」や子育て雑誌 FQ 主催「イクフェス」イベント出演をはじめ、個人指導塾 TOMAS 藤沢校での定期講座、神奈川県主管講座、企業・塾・幼稚園・ママサークルでの講話から個人レッスン・自主開催子育てセミナーなど幅広く活動中。 <http://ameblo.jp/miyuki-lifestyle/>

○10/26(土) 11/30(土) 10:30~12:00

○受講費 3,000円/回

	日程	時間	内容
1	10/26 (土)	10:30 ↓ 12:00	子育ての基本中の基本である、親子の信頼関係の育て方を学びます。 信頼関係を作るには、コツがあります。 「先褒め効果」や「先聴き効果」、そして「注意と叱り方」、さらには「やる気の育て方」など、子どもから信頼される親になると同時に子どもを信頼する親になる方法を、ワークを通じて身に付けて頂きます。
2	11/30 (土)	10:30 ↓ 12:00	子育ては幼児期だけのものではありません。 子育ての基本中の基本、自己肯定感の育て方を学びます。 自己肯定感とは、自分を大切にかけがえのない存在として、自分を信じる心の状態。 日本人の若年層は、先進国の中で最も自己肯定感が低く、近年では親が子どもの自己肯定感を育てることにすら気づいていないことが問題視されています。 子どもと親自身の「自己肯定感の育て方」を学ぶことはもちろんのこと、一生の中で最も長い役割を担う「社会人に必要な人間性」、そして「夢の抱き方・抱かせ方」、「ダメ親こそ人生の先生となるポイント」など、ワークを通じて楽しく学んで頂きます。



■講師／八木由紀

シリーズテーマ『子どもへの上手な寄り添い方』

静岡のマスコミ企業に就職し、幼児教育相談事業番組を始め教養番組、ドキュメンタリー番組、情報番組などを担当。20年余りに及ぶ番組制作、各媒体での取材経験から、「コミュニケーション能力の引き出し方」を中心に「親として、子どもの成長に合わせた寄り添い方のコツ」を伝授。

2009年、家庭教育アドバイザー資格を取得後は、静岡市学校教育相談員を経て、家庭教育支援協会理事、同静岡支部長を務める。

「親力アップ静岡」を主宰し、専門である教育心理学、家庭教育学をベースに「子どもを伸ばすための家庭教育」を「親の力」に視点を置き指導している。日本家庭教育学会会員。静岡市食育推進委員。<http://ameblo.jp/kateikyoubu>

○10/30(水) 11/30(土) 10:30~12:00

○受講費 3,000円/回

	日程	時間	内容
1	10/30 (水)	10:30 ↓ 12:00	タイトル【子どものやる気を育てるコツ】 子どものやる気は、ずっと続くものではありません。 やる気は、ボールと同じで、高く上げても必ず地面に落ちてきます。ですから、やる気は一度引き出しても安心せず、何度も高く打ち上げてあげる必要があります。 本講座では、子どものやる気を引き出すアプローチをお伝えします。
2	11/30 (土)	10:30 ↓ 12:00	タイトル【伸びる子どもに育てるコツ】 伸びる子どもは、自己肯定感が高い、と言われます。 自分を好き、自信がもてる、人の目や人からの評価も気にならない、そんな人間になれるのでしょうか？…なれます！ お子さんに、自分を大切に、社会からも必要とされる人間に成長してほしい、と思いませんか？ 本講座では、伸びる子どもに育てるための親のアプローチをお伝えします。

今後の活動予定②

年月	日	事業内容	場所
2013 10	18	研修会 テーマ「人間性を育てるほめ方叱り方」 13:00～15:00 講師 教育評論家 川越淑江氏	(社)全国育児介護福祉協議会 東京都新宿区新宿 6-16-6
2014 1	22	講師派遣 かながわコミュニティカレッジ連携講座 10:30～12:00 タイトル「母さんお肩を叩きましょう ～母は子のセラピスト子は母のセラピスト～」 協会会員 岩田一夫氏	かながわ県民活動サポートセンター 横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2
	29	タイトル「親の悩み、子どもの悩み、どこが一緒でどこが違う？ ～チャイルドラインから子どもたちの今を考える～」 協会会員 中嶋佳世氏	同上
2	5	タイトル「五感で育む家庭教育と心」 協会理事 松本美佳氏	同上
	12	タイトル「家庭内ケアのジレンマ」 協会理事長 二川早苗氏	同上

自己紹介

家庭教育支援協会に所属する会員の皆さまを、毎号2名ずつニュースレターでご紹介しています。家庭教育への思い、活動の様子、今後の抱負など、それぞれ思い思いに語っていただきます！

家庭教育師・家庭教育アドバイザー 武内 真弓
三重県四日市市在住

「児童養護施設訪問を始めて6カ月」

家庭教育アドバイザー資格を得て、私は兼ねてより気がかりに思っていた、児童養護施設への訪問ボランティアの一員になりました。日曜日の決められた時間にグループで訪問し、子どもたちと一緒に遊び・読み聞かせ・紙芝居・イベントの手伝いなどをしながら心の交流を深めています。

当初の、親と暮らせない子どもたちの心情を思いながらのいささかの気負いは、子どもたちに会った瞬間から、まったく吹き飛んでしまいました。子どもたちは元気そのもので人懐こく、すぐお友達になりました。ただ、楽しい時間を過ごしながらも、親のことは話題には出しません。暗黙の約束ごとになっているからです。そこが一般の親子子育て支援の場合と大きく異なるところです。彼らの笑顔の裏に背負っているものは一人ひとり違いますが、一つ屋根の下で縦社会を学習会得しながら、みんなとても健気です。子どもが心身に何がしかのひずみを負い、養護施設に身を寄せて、そこを安らぎの場であるとする姿に、複雑な思いがこみ上げてきます。そんな子どもたちと私は、対等の目線で彼らの人間性を尊重しながら、触れ合いを重ねることによって、子ども時代に大切な愛着形成の、僅かでも助けになれることを願っています。

ごく普通にあたりまえに家族の平和な暮らしがあることが基本です。しかし当たりまえであることの難しさを子どもたちは語りかけてくれます。家庭・子育て環境、親子問題、それを取りまく社会環境等、家庭教育師・アドバイザーとしての仕事や奉仕活動の輪をひろげていかなければならないことを痛切に感じています。



家庭教育アドバイザー
事務局 坂本有希子
神奈川県横浜市在住

家庭教育支援協会で事務局を担当しております。入会された方とは、一度はメール交換させていただいていると思います。

さて、この度は私のこれまでの活動についてご紹介をさせていただきます。入学した年、次年度向けに八洲学園大学のパンフレットを作成するという事で取材を受けました。その時にお話したのが次のようなことだったと記憶しています。

「卒業後は、全国の家庭教育アドバイザーを取得した卒業生が活躍できる場を作りたいです」

在学中は、大学のセミナーで知り合った仲間を中心に、「学んだことを活かし、多くの方に家庭教育の大切さを伝えよう！」という趣旨でメールマガジン「家庭力応援倶楽部 はっぴい ～スマイルコミュニケーション～」を、およそ2年間在学中の有志仲間と共に全国に向けて発行しました。そして卒業後、同じ頃に卒業した有志によって、家庭教育アドバイザーが情報を交換・共有しブラッシュアップできる場を先生達のご指導のもと任意団体である家庭教育支援協会を設立いたしました。

こうした活動を通し同じ志を持った仲間とたくさん出会う事が出来ました。

今後も家庭教育支援協会を通し全ての家庭が「しあわせ」になるよう日々活動して参ります。

協会リーフレットについて

既に会員メールでは、お知らせしておりますが、今年4月、本協会のリーフレットを作成いたしました。

皆さまの活動にお役立て頂けると幸いです。

ご入り用の方は、事務局までご一報ください。詳細をご案内いたします。

家庭教育支援協会 事務局

HP address : <http://kateikyoiiku.com/>

mail address : jimu@kateikyoiiku.com

HPリニューアルしました!

2013年10月1日

本協会のHPをご覧になったことはございますか?

「まだ!」と言う方は、是非ご覧ください。協会のお知らせや、活動について記載しています。

また、会員のみなさまによる「コラム」も隔週で更新中です。

近日中にリニューアルを予定しています。

更に充実したHPをどうぞご期待ください。

～編集後記～

家庭教育支援協会 理事 田光江実子

家庭教育アドバイザーの活躍の途を見出そうと発足した家庭教育支援協会も、本年度4月に新体制となり、早半年が経ち、「ニュースレター」も「会報」にリニューアルいたしました。日頃は本協会へのご理解とご協力をいただき、お礼申し上げます。

協会本部では皆様のお役に立てるように試行錯誤しながら亀の歩みながら進んでいるつもりではありますが、皆様の目にはどのように映っているでしょうか。

家庭教育が真に必要な人へ、必要なことを届けられる協会へ発展のため、これからも精進してまいりますので、一緒に協会を盛り立てていただければ、今後益々お力添えよろしく願いいたします。

★編集部(コラム・会報委員会) adviseryuki@yahoo.co.jp

